

ア・キットからティントイ、  
ダイキャストまで、スバル360の世界

モデルカーズ9月号 第9巻第13号 平成20年9月1日発行毎月1回1日発行  
自動車模型の専門誌 [モデル・カーズ] 9月号

2008-9

148

# model cars



純正、1/8スケール  
パーヌトロフィ

もうすぐ150号記念・特別企画第1弾  
1/12 スバル360プレゼント!  
EBBRO 1/12 SUBARU360



今月の1台  
レクサスLS600hL

アメリカン・モデル・カーズ  
AMCのクルマたち

フィッシャー副社長にインタビュー  
ノレブの世界戦略に迫る!

おなじみフジヤのマスターが行く!  
ル・マン2008訪問記

ホビダス  
趣味の集合サイト  
www.hobidas.com



We'll meet again,

# SUBARU360

特集 ■ また逢う日まで・スバル360

つい最近、休暇を利用して地中海で観光船旅行を楽しんでいた時のこと。私は世界でもトップレベルに位置する、あるフル・ディテール・モデル・クリエイターに会えるのを楽しみにしていた。そして、そこでとんでもない代物に遭遇してしまった。この観光船旅行は毎年の恒例行事で、他の交通手段では複雑になってしまう様々な興味深い場所を訪れることができる。今回はローマ、チュニス(チュニジアの首都)、マルタ島、そしてフランスのヴィルフランス(モナコ近くの地中海に面した町)を観光した。

そこで我々は長年の旅行仲間、ブライアン&イーザリン・マリガン夫妻の娘と会い、ランチする予定を立てた。私とマリガン夫妻は、かつて音楽業界で働いていた同士でもあり、彼らの娘、シボーンはカー・モデル・クリエイターのピエール・ロジエと結婚した。彼はエクサンプロヴァンスから少し海岸寄りに住み、そこで製作に動いている。彼の熟練した技はウェブ・サイト(<http://lprecreation.fr/lprecreation/>)の中で見られるのでは非観いてみてほしい。彼らが出会い、結婚したという事実は、まさに模型界のラブ・ストーリーである。

エクサンプロヴァンスから絵に描いたような港町、ヴィルフランスまで車でやって来たシボーンとピエールを迎えた私たちは、レストランに入り、湾側の日当たり良好な席へ腰掛けた。ピエール、これだけは言っておきたい。いつの日か君が行き詰まることがあ

## 地中海で出会った奇跡の一台

でも、生活に必要なものはすべて私が用意するから、君は余計なことを考えないでいい。……少し脱線したが、その席上での話に戻ろう。彼はランチに手をつけないうちに、突然丁寧に梱包された小さな包みを取り出した。次々と包装紙が解かれていくと、中から丁寧にエンジンとシャシーを組み立てた、精巧なフルディテール・モデルカーが姿を現した。「いまだかつて見たことがない」レベルだった。私はその時点までワインを口にしていなかったもので、もちろん“シラフ”の眼で見てだ。

ピエールの最新作、1/43 マセラティ 450S スポーツのレーシングカーは、文字通り手抜きがない完璧なディテールが備わっていた。彼のディテール表現をじっくり観察すると、質感、量感ともに、個人的に収

# From BRIAN HARVEY

ブライアンのヨーロッパ通信  
老いてなお益々盛んなブライアンは、休暇を利用した地中海旅行の間も決してモデルカーのことを忘れない。そんな彼だからこそ、極上の“人”と“模型”に巡り会えるのだ。

text&photo: Brian-HARVEY(ブライアン・ハーベイ)  
translation: Naoki-KAMIYA(神谷直己)

集している CMC 製 1/18 モデルの傑作に勝るとも劣らないことがわかった。

ピエールのことは、彼が「グランプリ・モデルズ」の常連だった頃から知っている。彼はいつも革新的な新作を持って来ていたもので、タメオの F1 モデルのような完成品をベースにしても、ひときわ異彩を放っていた。誰にも真似できない独自の視点によって、1/43 F1 モデルリングの裾野を広げる斬新な概念を持ち込んだ。彼はまずタメオのボディを取り外し、その下に実車の車体構造と同じディテールを再現す

彼は自問する。“なぜこのコレクターのふたつの願いを過ぎてやらないんだ”と。

この実現が「LP クリエーション(ピエールの会社)」の設立に繋がり、数多くのハイ・クオリティなディテールを持つシャシー・モデル(当然スクラッチ)が生み出された。このシャシー・モデルは同車種の完成形の横に並べてディスプレイするのが最適だ。これらによって、既存のコレクションが本当の意味で完成するといえるだろう。

ピエールはシャシー・モデルの新作を製作するため、実車の修復手法と同様に、オリジナルの開発、生産に関わった人々から当時の写真や設計図を集め、さらに証言に及ぶ広範囲な研究を行う。その後、1/43 にスケール・ダウンさせた設計図を引き、実車の組み立てと極めて近い方法でアッセンブルしていく。シャシーには細い真鍮製チューブを使っており、それを 0.3mm ~ 0.5mm という信じられないサイズの手作りボルトとナットで組み立てる。そのほかの工程もできるだけ実車の組み立て方法のままに細部まで徹底的に作り込むのだ!

こうして生み出されるハイレベルで貴重な個々のモデルは、完全なる芸術品といっても過言ではない。ピエールによって、まったく新しいモデルカーの概念が誕生したのだ。この筆舌に尽くしがたいほど素晴らしいマセラティ 450S がその最たる例である。他に類を見ない彼のようなモデラーこそ、“匠”という称号が相応しい。

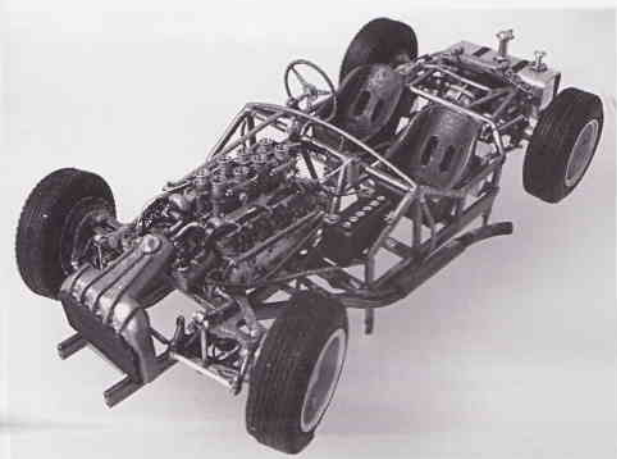


ブライアン・ハーベイ

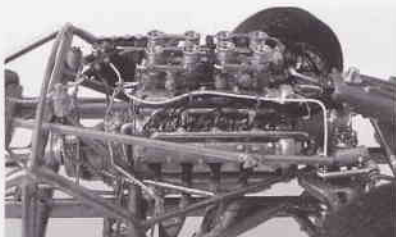
英国フォー・スモール・ホイール・マガジン誌編集長。かつては自らステアリングを握ってレースに参戦していたエンスージャスト。クルマ関係の出版業界で長く活躍する他、ジャズや初期のロックに関する造詣も深く、BBCのディスク・ジョッキーや、ピートルズのマネージメント業務に携わった経歴も持つ。現在は幼少時からの趣味もちろんカー・モデルが高じて始めたモデル専門店グランプリ・モデルズのオーナーとしての顔も持つ。

るのである。ワイヤーやパイプをはじめ、操縦系、エンジン、さらに複雑なエグゾーストに至るまですべて、まるでスイスの超精密時計のように。これらのモデルは絶賛され、非常に珍重されたのはいうまでもない。

しかし、レストランの真っ白なテーブルクロスの上に置かれた新作は、明らかにこれらとはまた違ったコンセプトを持っているように私の目には映った。「一般的に 1/43 モデルカーはより正確に、より美しく進化を遂げてきたが、シャシー、エンジン、そして駆動装置の美が、車体に隠されて損なわれていることに我慢できないんだ」と彼は説明する。多くのコレクターがモデルの連続するラインと形状を見る喜びだけでなく、“シャシー”や“内部構造”まで見たいと思っていることに、彼は気づいたのだ。“それゆえに”



マセラティ 450S のシャシー



エンジンのディテール



コックピットとステアリングのディテール



ピエールからモデルの説明を受けるブライアン



左からシボーン、ピエール、ブライアン